

# 日医健診標準フォーマットの 運用開始について

平成27年4月15日

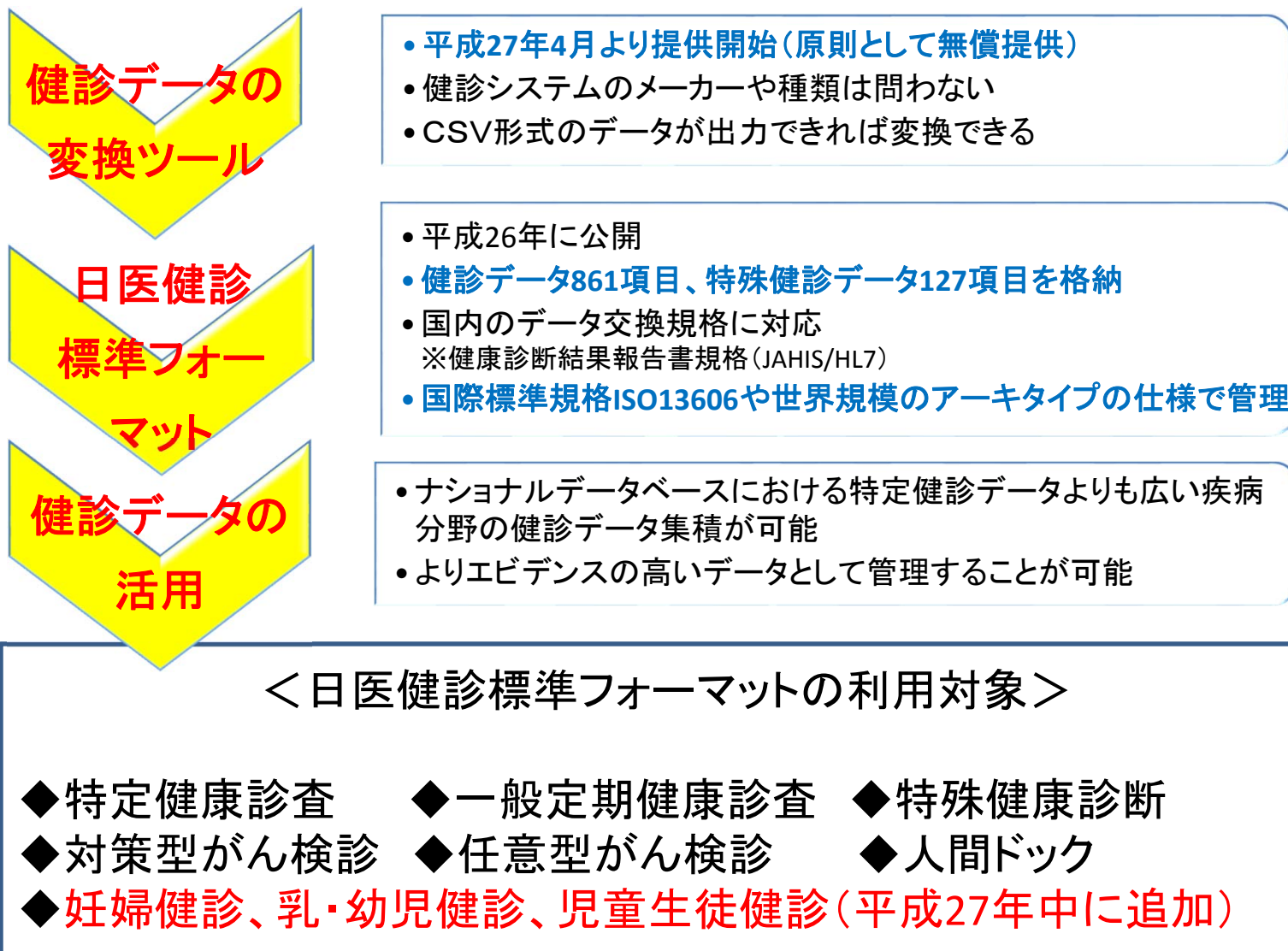
公益社団法人 日本医師会

# 1. 生涯保健事業の推進による健康寿命の延伸

【日本医師会の考え方とあるべき姿への方向性】

乳幼児期から高齢期に至るまで、医療等IDを活用して、必要な健診項目を網羅した保健事業を展開し、蓄積されたデータが国民の健康管理に適切に反映されるような仕組みを講じる。

## 2. 日医健診標準フォーマットの運用開始



### 3. 国際標準規格ISO13606とアーキタイプ

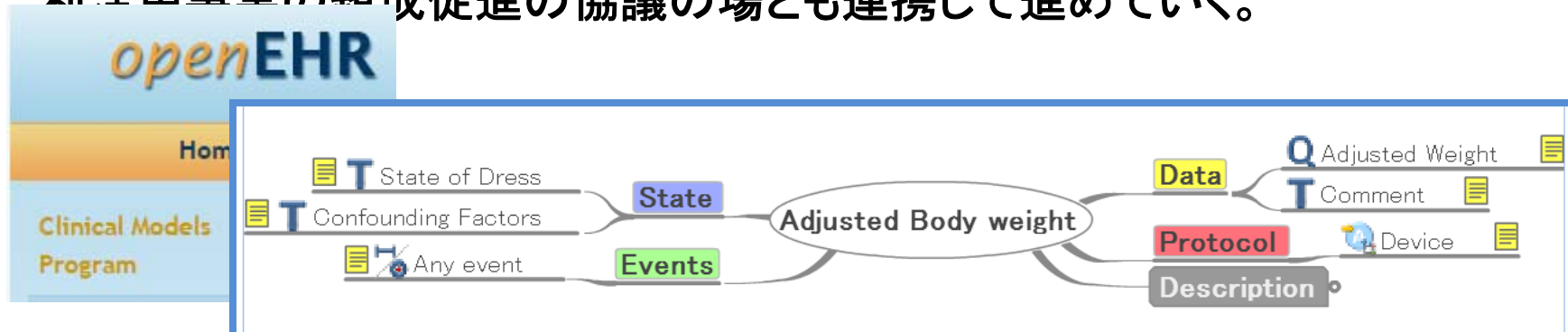
#### 【ISO13606】

生涯カルテ（EHR）を実現するために、国際標準規格であるISO13606がある。

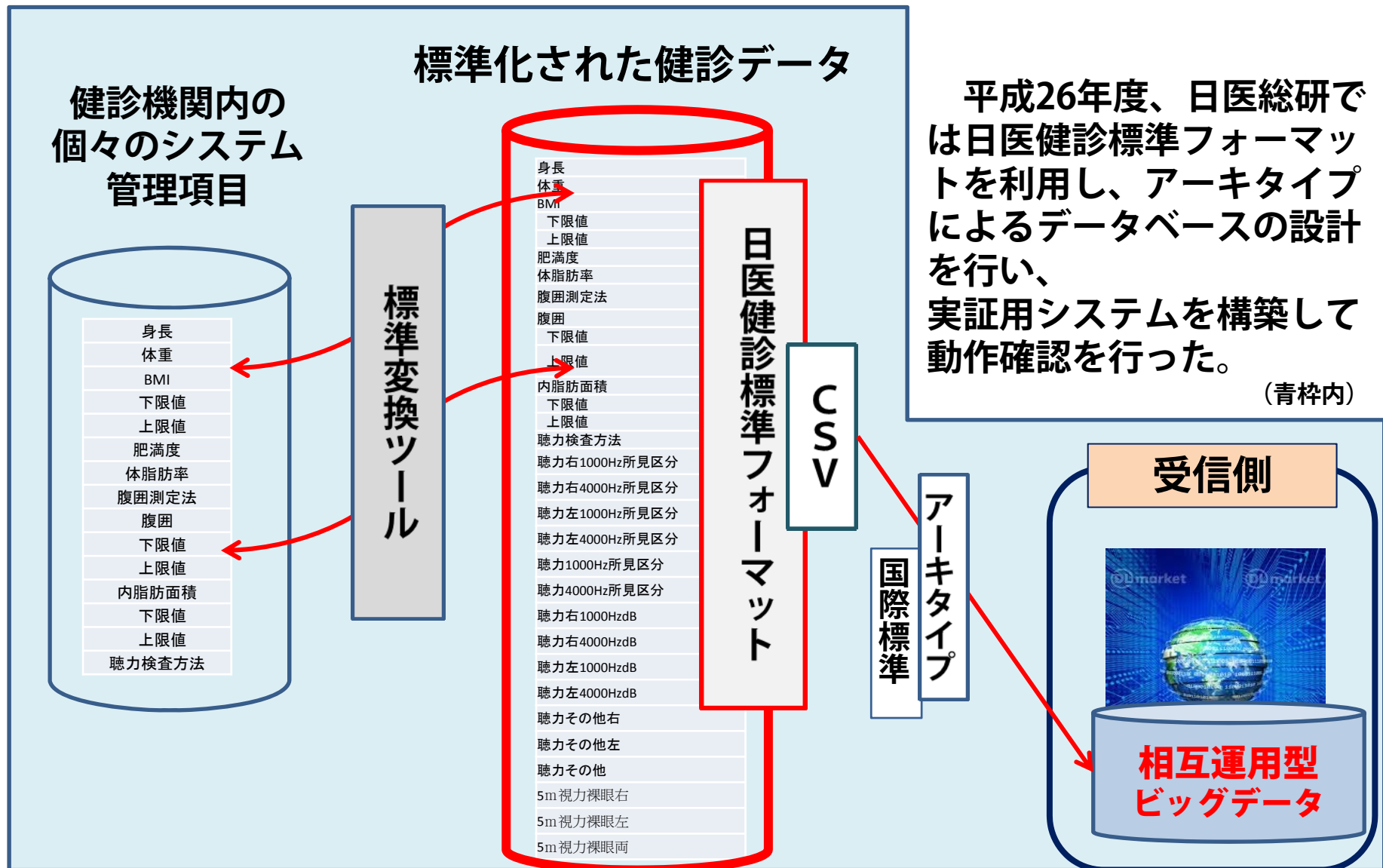
#### 【アーキタイプ】

- ①相互運用性の観点から、共通的なデータモデルを定義する仕様がアーキタイプである。
- ②アーキタイプは「血圧」「尿検査」「心電図」などといった単位で作成され、それを組み立てることで、データモデルが完成する。
- ③世界規模で利用されているアーキタイプとして「OpenEHR」のアーキタイプがあり、平成27年2月現在で2500種類まで公開されている。

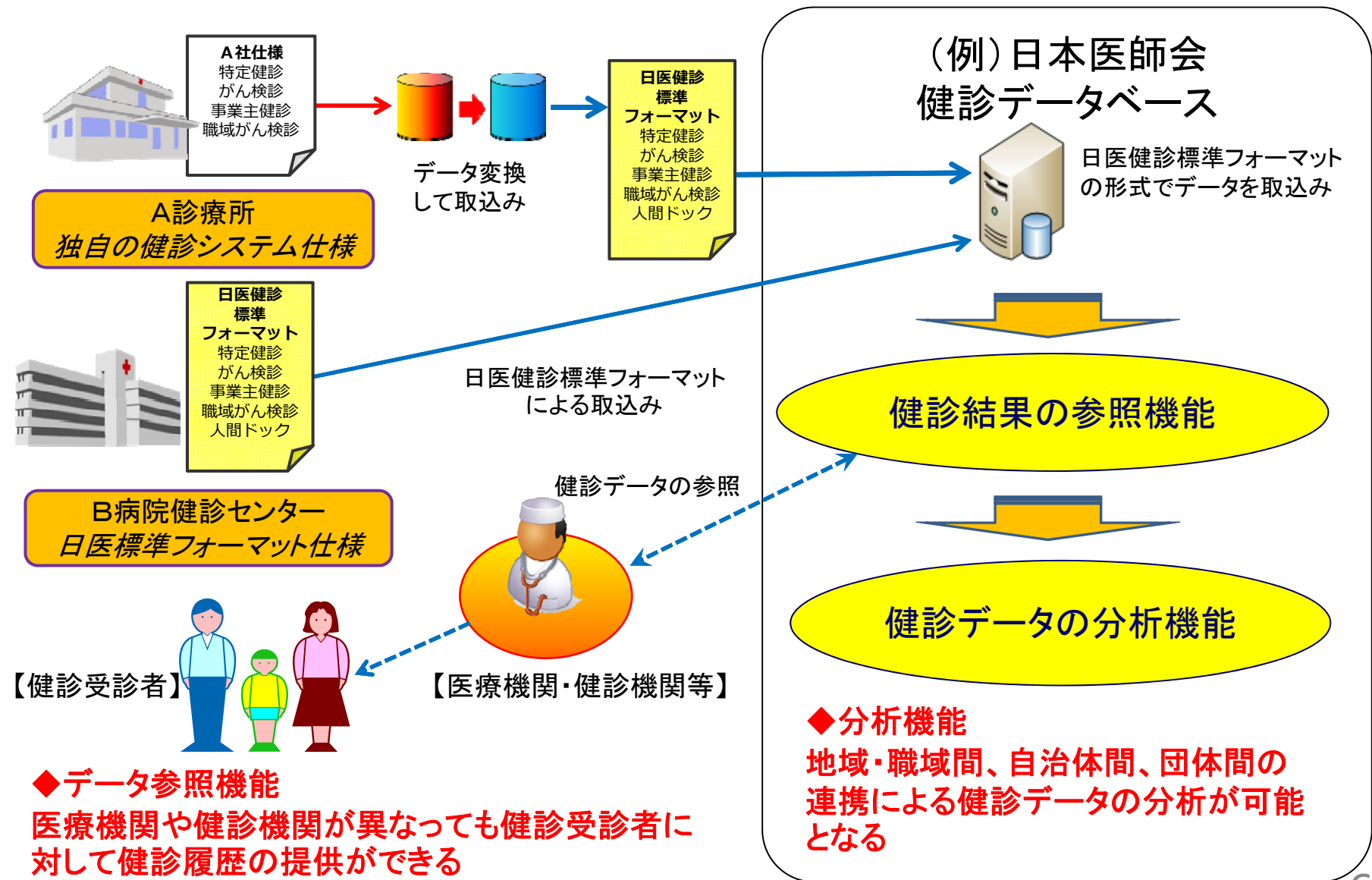
※国が設置した「次世代医療ICT基盤協議会」におけるデジタルデータ収集・利活用事業の組成促進の協議の場とも連携して進めていく。



# 4. ビッグデータ構築にむけた実証試験



# 5. 横断的なデータ集積による健診データの活用



## 6. 標準化された健診データの活用と今後の検討

1. 健診機関においては、各健診結果を標準化された仕様で蓄積していくことで、健診システムの更新時における「既存データの移設コスト削減」等に活用できる。

＜今後の検討＞

◆医師会共同利用施設を対象に、大規模データの長期保管をサポートしていく。

2. 住民が自身や家族の健康管理のため、健診を受診した健診機関や医療機関が異なっても中長期にわたって健診データを把握できる。

＜今後の検討＞

◆医師会や医療機関が健診データを閲覧するシステムを構築していく。

3. 地域健診や職域健診等のデータを標準化した仕様で集積することで、健診実施状況の把握や健診内容に関する比較・分析等が行える。

＜今後の検討＞

◆集積したデータを分析する機能や体制を構築していく。